

【奨励賞】

最速の最後の貸し手

～取り付け騒ぎに追いつけ繋ぎ～

東京経済大学	経済学部	長田 出帆	
	〃	住谷 颯太	
	〃	経営学部	塩原 弾
	〃	経済学部	佐々木 颯
	〃		宮本 航太

(要旨)

米国シリコンバレー銀行(SVB)のバンクランは、SNS やインターネットバンキングの普及を背景とした「デジタル・バンクラン」と呼ばれ、金融界に衝撃を与えた。中小金融機関にとって厳しい事業環境が続いている日本において、仮に、個別行に深刻な問題が発覚し、SNS を介して瞬く間に拡散した場合、日本でも SVB のような事態が起こりうるのではないか。

こうした問題意識のもと、本論文では、デジタル・バンクランに迅速に対応可能な新たな流動性供給プログラムとして、自動発動・間接型の最後の貸し手機能「最速の最後の貸し手」を提案する。このプログラムは、CBDC の導入を前提とし、危機の兆候が感知された場合、危機銀行に日本銀行の信用保証がついた債券型のトークンの発行権を自動で与えるものだ。他の金融機関がトークンを引き受けることで流動性が供給され、危機への即時対応を可能とする。

本提案がデジタル・バンクランによる金融危機の解決に貢献する事を願う。